

令和5年8月18日

## 8月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木県では虫害や木材価格の低迷の影響で皆伐作業を一時中断し、間伐・保育作業に転換する事業者が多くなり、県内原木生産量は減少。共販所への入荷量も間伐材中心で少ない。製材業者の在庫が少なくなっており、若干値上がり傾向にある。スギ3m小径材、柱材とも引き合いが強くなった。4m中目材は虫害で売りづらく弱保合。ヒノキ材は3m小径材・柱材ともに保合推移、4m中目材は引き合いが強い。

群馬県でも原木生産量は減少。原木市場では特に3m柱材がダブっている。猛暑のため製材生産の効率が低下している。首都圏の製品市場からの受注は相変わらず少ない。地場の仕事が徐々に出始めたが例年の7割程度。工場の製品在庫は多くオーバーフロー寸前。製品価格、売れ行きとも厳しい状況に変わりはない。

### 2. 米材

米国西岸のオレゴン州南部で山火事警戒レベルが上昇してきたが、出材に影響は見られない。一方カナダでは7月に乾燥が進み伐採に大きな影響を与えたが、7月最終週の降雨で伐採規制は緩んでいる。しかし8月に入り好天が続き、再度伐採規制が強化される見込み。米マツIS級並の8月積み対日輸出価格は、過去3ヵ月の据え置き決着の歪みが解消される格好で、\$20アップの\$960/千SCRで決着した模様。6月の米国新設住宅着工数(前月比12.1%減)とFRBの再利上げによる住宅需要の先行き不透明感から米国製材品市況は反落。シカゴ先物も軟調な展開で先行き下落の見通し。ランダムレンジス紙発表の15種平均価格(8/1)は\$463/M。カナダ西岸の港湾荷役労働者組合(ILWU)のストライキは暫定合意が二転三転したが合意に達し終結。2週間のストライキは荷役作業に影響しており、優先順位の低い木材製品に大きな遅れが見られる。

6月原木入荷は128千 $m^3$ と今年最少、1~6月累計は912千 $m^3$ 、年率換算で2,000千 $m^3$ を割るペース。出荷は163千 $m^3$ と大きく出超、1~6月累計は921千 $m^3$ となり入荷とほぼ同量。在庫は減少し152千 $m^3$ で、在庫率は0.99ヵ月と3ヵ月振りに1ヵ月を下回った。国内製材需要は依然回復せず、製材メーカーの苦境が続いている。東京木材埠頭の7月製品入荷は9千 $m^3$ (前月比22.9%減)、

出荷は 11 千 $\text{m}^3$  (同 10.2%減)、在庫は 26 千 $\text{m}^3$  (同 6.0%減)。

### 3. 南洋材

サラワク州では天候が極めて良好なため、渇水により内陸や高地のキャンプからの水上搬送は止まっている。PNG では通常乾期である 7 月の天候も依然ぱっとしない。夕方・夜半に降雨があるため、伐採は本格稼働に戻れず、出材も今一つの状況である。サバ州では天候良好で、7 月中旬に日本向けに約 4,500 $\text{m}^3$  が船積みされ、8 月に入荷の予定。国内需要が低迷しており、買い控えにより契約量は減少している。8 月予想の原木入荷 9 千 $\text{m}^3$ 、出荷 7 千 $\text{m}^3$ 、在庫 12 千 $\text{m}^3$ 。製材品入荷は 25 千 $\text{m}^3$ 。フリー板市場は依然悪く実需は低い。

### 4. 北洋材

シベリア産地では日本・中国市場の不振により原木伐採量は低水準で推移。主力シッパーは最低数量に絞って製材生産、販売している模様。夏山に移行しアカマツ原板の交渉シーズンは終了した。アカマツ完成品については日本側の値下げ要求は強いが、産地側では S グレード \$500/ $\text{m}^3$  は譲れず、膠着状態が続いている。各社と必要最小限の成約に止まっている。現地挽きアカマツ野縁製品は 7 月の入荷増が雰囲気悪くしている。栈木や野縁 3m、下級グレードの荷動きは良くなっているが、上級グレードはコスト高で売れ行きは厳しい。北洋材製材各社は減産により耐えているが、販売回復も見込めず先行きが読めない状況。6 月の製品入荷 (東京+川崎) は 8.1 千 $\text{m}^3$  と前月より減少したが、7 月は入港遅れがあり増加の見込み。出荷は 14.8 千 $\text{m}^3$  と入荷が少なかった割には順調。在庫は 41.7 千 $\text{m}^3$  と大きく減少したが、7 月は多少増加の見込み。

### 5. 合板

東日本の合板メーカーは原木の仕入価格を維持した。九州では天候不良が続き、一部の原木価格が上昇。秋田も 7 月の記録的大雨で合板用原木の出材や価格への影響が注目される。カナダ西海岸でストライキにより荷役作業が一時停止したが、合板メーカーは減産しているため、米マツ原木の不足感はない。

6 月の国内合板生産量は 21.8 万 $\text{m}^3$ 、うち針葉樹合板は 21.4 万 $\text{m}^3$ 、出荷量は 21.9 万 $\text{m}^3$  で在庫量は 16.1 万 $\text{m}^3$ 、うち構造用合板の在庫は 13.9 万 $\text{m}^3$  と前年に比べ高水準な状態が続いている。針葉樹合板は東日本、西日本ともに底値圏に入った模様。合板メーカーは 8 月も減産を維持し価格を据え置く構えである。市中では依然当用買いであるが、即納依頼ペースは着実に上がっている。

輸入塗装型枠合板の市中価格は底入れの気配が濃くなってきた。産地価格は既に底打し、加えて円安進行で輸入コストが上昇傾向にあり、市中価格を適正水準まで上げようという気運が高まっている。6月の合板輸入量は前月比0.7万m<sup>3</sup>減の14.3万m<sup>3</sup>（対前年比61.8%）となり、インドネシア以外の主要国からの輸入量は減少。インドネシアでは原木価格の下げ止まりや製造コスト割れにより値下げの余地はなく、底値圏に入った模様。マレーシアでは生産量減少や輸出税などコストが上がっているため、価格の値下げは難しい局面に来ている。

## 6. 構造用集成材

第2・四半期契約分のラミナが順調に入港している。7月入荷は通常の5~6割と少なく、在庫量も例年通りに戻りつつある。第2・四半期契約は前期から€15程度アップの€280/m<sup>3</sup>程度で決着。第3・四半期契約も横ばいの見通しである。オファー量は欧州の休暇時期と重なるため減少。7月時点のラミナ入港価格は46,000円/m<sup>3</sup>程度で、8月以降も同様の見通し。6月の構造用集成材の入港量は41,460m<sup>3</sup>である。5月に引き続き低水準であることから、各プレカット工場では在庫をもつ動きに切り替わることが予想される。

## 7. 木材チップ(東海)

チップ原木は製紙・バイオマス用とも小径材の引合は強いが全体では低調。解体材は物件の減少、夏場の作業環境の悪化等で盆休みを例年より長期間取る業者が多く入荷は減少。製紙用チップは大手製紙会社のN系回収ボイラーの故障により1ヵ月半ほど針葉樹チップの受入停止となり余剰感が強い。燃料用も盆休定期修理、ボード会社の火災等で消費は一時的に減少。在庫は製紙用、燃料用とも長期的には不足感が否めない。

## 8. 市売問屋

8月に入るとお盆休みのため、当用買いになる傾向がある。材木店からの電話も少なくなっている。スギ、ヒノキ構造材の荷動きは材木店の仕事が細かいため悪い。外材構造材も同様である。造作材は国産材、外材とも荷動きが悪い。材木に不足感が見られず、リードする材がなく、柱材も値を下げている。

## 9. 小売

住宅需要が低調なままで木材販売は盛り上がりには欠けている。プレカット工場では非住宅物件は増えているが、住宅の新規受注はまとまらず、先行きは不透明の模様。木材製品は在庫調整が進み、価格は底入れと見られていたが、肝心の需要が回復していないため、軟弱感が残っている。スギ、ヒノキKD構造材は下落し、特にスギ材の弱さが目立つ。外材構造材は下げ止まり感

があるものの、実需低迷で値上げには至っていない。しばらくは当用買いが続きそうだ。造作材の荷動きは非住宅や店舗関係が中心となっている。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和5年8月18日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	↗
北洋材	丸太	輸出禁止	*	*
	製材品	→	↗	↘
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	↘	↗	↗

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	↗
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	↗
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	→
		アカマツ (KD) 16×40上級	→	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 3.0×10.5×3m S4S FOHC	→
		ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↗
		スギ 無化粧 JAS 5プライ	→	
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↘